

第 51 回クラシックを楽しむ会

2018 年 1 月 14 日 (日) 18:00～ (3 時間 18 分、休憩除く)

タイトル：**歌劇「アルチーナ」(ヘンデル)**

エクサン・プロバンス音楽祭 2015
2015 年 6 月 30 日、7 月 10 日 (プレミエ)

会場等：プロヴァンス大劇場
(ポリショイ劇場との共同新制作)

楽団等：フライブルク・バロック・オーケストラ

合唱：ペルミ歌劇場合唱団

指揮：アンドレア・マルコン

演出：ケイティ・ミッチェル

出演：パトリシア・プティボン (アルチーナ)
フィリップ・ジャルスキー (ルッジェーロ)
アンナ・プロハスカ (モルガーナ)
カタリナ・ブラディク (ブラダマンテ)
アンソニー・グレゴリー (オロンテ)
クシシュトフ・ボンチク (メリッソ)
エリアス・メドラー (オベルト) 他



魔女モルガーナ(左)は恋の相手が女性ブラダマンテ(中央)と知って…、右端はルッジェーロ。後ろはライオンにされている少年オベルトの父



プティボン
(アルチーナ)



ジャルスキー
(ルッジェーロ)



プロハスカ
(モルガーナ)



ブラディク
(ブラダマンテ)

あらすじ

魔女の女王アルチーナは、島に漂着した騎士たちを魔法で誘惑し、飽きると獣にして捨てる。騎士ルッジェーロも、アルチーナと愛の生活に溺れている。ルッジェーロの婚約者ブラダマンテは弟リッチャルドの姿に男装して、ルッジェーロを探しに島に行く。出迎えたアルチーナの妹モルガーナは凛々しい「リッチャルド」に一目惚れ……。

みどころ聴きどころ

第 2 幕アルチーナのアリア「ああ！私の心よ！」、ルッジェーロのアリア「緑の牧場よ」、第 3 幕ルッジェーロのアリア「ヒルカニアの岩窟に」などの人気アリアやレチタティーヴォなど多数。

エクサン・プロバンス音楽祭

南仏のエクサン・アン・プロヴァンス* (通称エクス) で毎年 7 月に開催される世界的に有名な音楽祭。本公演が開催されたプロヴァンス大劇場の他、数か所の由緒ある会場で公演が行われる。

* マルセイユの北 30km に位置する古都で芸術都市・観光地。街中にある噴水とともに、街の東にそびえるサント・ヴィクトワール山はセザンヌが描いた多数の絵画で有名。



プロヴァンス大劇場

第 52 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：**歌劇「アイダ」(ヴェルディ)**

3 月 18 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

ザルツブルク音楽祭 2017。ネトレプコ (アイダ) とメーリ (ラダメス) にセメンチュク (アムネリス)、ムーティが振るウィーン・フィル。この豪華な組み合わせは見落とせません！

4 月はザルツブルク祝祭小劇場 1983 年「コジ・ファン・トゥッテ」、5 月以降、ウィーン国立歌劇場 2016 年「ヘンゼルとグレーテル」、スカラ座 2017 年「アンドレア・シェニエ」などを予定。

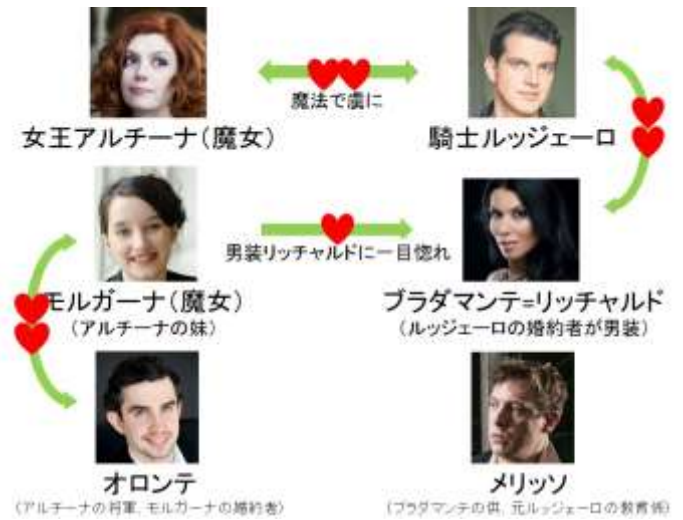
あらすじ

【時と場所】

中世、魔女アルチーナが支配する魔法で作った美しい島（実際は岩山に囲まれた荒野）

【主要人物】

- アルチーナ 魔法の島に住む魔女。男を誘惑し飽きると獣の姿に変えてしまう。
- ルッジェーロ 騎士、ブラダマンテの婚約者だがアルチーナに心奪われている
- ブラダマンテ ルッジェーロの勇敢な婚約者、弟リッチャルドに変装
- モルガーナ 魔女、アルチーナの妹、オロンテの恋人
- オロンテ アルチーナの将軍、モルガーナの恋人
- メリッソ ブラダマンテの供。元ルッジェーロの家庭教師で賢者
- オベルト 行方不明の父を捜している少年



アルチーナ関係図

【第1幕】

騎士ルッジェーロは、女王アルチーナが支配する魔法の島に漂着し、アルチーナと愛の生活に溺れている。ルッジェーロの婚約者ブラダマンテは、メリッソを伴って、ルッジェーロを探しにアルチーナの島へ行く。アルチーナの妹モルガーナは、弟リッチャルドに変装しているブラダマンテを出迎え、凛々しい「リッチャルド」に一目惚れ。

モルガーナの婚約者オロンテは、モルガーナが「リッチャルド」に夢中なのを見て「リッチャルド」がモルガーナを連れ去りに来たと誤解し、オロンテはルッジェーロに「アルチーナがリッチャルドに夢中になり、お前を捨てようとしている」と吹き込む。

この策略にかかり、アルチーナとルッジェーロは互いの愛情に不審を抱く。ルッジェーロは「リッチャルド」をライバルと勘違いし、アルチーナはルッジェーロだけを愛している証に、「リッチャルド」を獣の姿に変えようとする。モルガーナは「リッチャルド」に逃げるよう勧め、アリア「**また私を喜ばせに来て!**」で、恋焦がれ愛する人はあなただけと歌う。

【第2幕】

メリッソがルッジェーロのかつての教育係の姿で現れ、ルッジェーロの指に魔力を解く指輪をはめる。ルッジェーロは正気を取り戻し島から脱出する機会を狙う。ルッジェーロは正体を明かしたブラダマンテを魔法の仕業かと疑いながらもかつての愛を取り戻す。

オロンテがアルチーナにルッジェーロが逃げようとしていると告げる。アルチーナは心から愛してしまった恋人の裏切りを嘆き、アリア「**ああ!、私の心よ!**」を歌う。

「リッチャルド」が女性だと知ったモルガーナは怒り心頭、アルチーナの復讐を予告する。ルッジェーロはアリア「**緑の牧場よ**」で、美しい物全て、魔法がとけて元通りのぞっとする光景に戻るだろうと歌う。

アルチーナは、ルッジェーロの心を引き止めようと、魔力に頼るが、その効き目はなく彼女は絶望する。

【第3幕】

ルッジェーロは、騎士の任務とブラダマンテへの愛のためこの島を離れることを、アルチーナに告げる。アルチーナは心変わり非難したが彼の決心は固い。この島がアルチーナの軍隊と怪物たちに囲まれていることを聞いたルッジェーロは、アリア「**ヒルカニアの岩窟に**」を歌って戦いに出ていく。

オロンテはアルチーナに、自分の軍隊も怪物たちもルッジェーロに打ち負かされたことを報告する。アルチーナは強い敗北感に襲われて嘆き悲しみ、アリア「**私には涙が残されている**」を歌う。

ついに魔力の源である壺をルッジェーロが壊すと、魔法が解けて辺りの光景は一変し、岩に変えられていた人々も人間の姿に戻る。魔力から解放され愛と平穏に満ちた日々が戻ったことを、皆で祝福する。

出演

パトリシア・プティボン(アルチーナ役) 1970年フランス生まれのコラトウーラ・ソプラノ歌手。バロックから近代までのフランス、ドイツの歌劇や喜歌劇等多数出演。2015年ジャズバイオリニストと再婚。

フィリップ・ジャルスキー(ルツジェーロ役) 1978年フランス生まれのカウンターテナー歌手。ヴァイオリンのディプロマ取得後、声楽に転向し古楽科声楽専攻を修了。華やかさのある美声と超絶的な技巧を持ち、バロックの声楽曲の解釈で高い評価を受け、フランスのシュバリエ勲章など受賞多数。

アンナ・プロハスカ(モルガーナ役) 1983年ドイツ生まれのコラトウーラタイプのソプラノ歌手で、ベルリン国立歌劇場所属歌手。音楽一家に生まれた音楽界のサラブレッド。オペラ以外に世界の大物指揮者や一流オーケストラと共演、世界的な音楽祭にも多数出演。

カタリナ・ブラディク(ブラダマンテ役) セルビア生まれのメゾ・ソプラノ/コントラルト(アルト)歌手。メゾ・ソプラノ歌手として各地の歌劇場で引っ張りだこ。

アンソニー・グレゴリー(オロンテ役) 英国出身のテノール歌手。

クシシュトフ・ボンチク(メリッソ役) 1990年ポーランド生まれのバス歌手。

アンドレア・マルコン(指揮者/オルガン、チェンバロ奏者/学者)

1963年イタリア生まれ。97年にヴェニス・バロック・オーケストラを設立。斬新でダイナミックな解釈の「四季」など従来の解釈を打ち破る演奏で欧州音楽界に話題を巻き起こす。受賞も多数。欧州各地の音楽祭、コンサート出演に加え、国際コンクールの審査員や各地の音楽大学で後進の指導に尽力。ドイツの**フライブルク・バロック・オーケストラ**は「古楽オケのウィーン・フィル」とも称される名人集団。二人のコンマスが音楽監督を務める自主的な団体。



アンドレア・マルコン

ケイティ・ミッチェル

ケイティ・ミッチェル(演出家)

1964年イギリス生まれ。優れた演出家がひしめく演劇大国イギリスの中でも最も過激で先鋭的。2016年の演劇公演では、拷問やレイプが頻出する過激な演出で最初の1週間に失神者5名を出して話題になった。

本公演では映像を一切使用せず、独自の二層構造の舞台装置(セノグラフィ)を使用。下層中央室は美貌の魔女姉妹の魔法が及ぶ肉欲と快楽の部屋で、魔女姉妹がその両側の部屋に移動すると老女に変身。上層は実験室風で、飽きた騎士たちを動植物に変える装置とその装置で変えられた動植物を展示。

ヘンデルとJ.S.バッハ、D.スカルラッチェ

ドイツ生まれのヘンデルとJ.S.バッハ、イタリアのD.スカルラッチェの三人は同じ1685年生まれで、三人とも後期バロックを代表する作曲家。若いころの三人は、バッハは即興演奏家として、ヘンデルとD.スカルラッチェの二人はハープシコード奏者として名人芸の腕前で即興演奏を競い、一生敬愛し合った仲。

J.S.バッハは生まれ故郷近くで一生を送り、宮廷・教会のための音楽を作曲した。ヘンデルとはすれ違いで二人は一度も会うことはなかった。

ヘンデルはドイツを出てイタリアに修行、前期バロック・オペラを確立したナポリ楽派始祖A.スカルラッチェ(D.スカルラッチェの父)らの影響を受けた。

オペラで成功してドイツに帰国しハノーファー選帝侯(後に英国王ジョージ1世)宮廷楽長になったが、すぐに英国王室楽長に乞われイギリスに移住し、劇場を中心に大衆に向けた多くの音楽を作曲した。

英国で最初の歌劇「リナルド」(アリア「私を泣かせてください」=「涙の流れるままに」で有名)は大成功を収めた「魔法オペラ」。歌劇「オランダ」、歌劇「アルチーナ」も同じ「魔法オペラ」。

アリア「オンブラ・マイ・フ」=「ラルゴ」=「懐かしい木陰」で有名な歌劇「セルセ」=「クセルクセス」は産業革命後のイギリス・ブルジョア社会に受け入れられず、金のかかるカストラート中心のイタリア語オペラから撤退。英語のオラトリオに転向し「メサイア」など数々の名作を生んだ。



「アルチーナ」作曲当時のヘンデル